The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	利用学生の声　サイバーメディアフォーラム no.13 CALLシステム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2012, 13, p. 69-70
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70342
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

利用学生の声

＊＊

私が受けたWritingの授業は以下の3点において勉強になったと考える。一つめは効率的学習。学生は各々のPCディスプレイ上において英作文の添削指導を受けられる。これにより転写等の無駄な時間が省かれるため、他学生の作文及びその添削の様をより多く見ることができ、従来型のクラスより学習の機会が飛躍的に増加した。二つめは情報社会的学習。学生はテキストデータの送信により宿題の提出を行う。そのために作文及び添削後の自己推敲はすべてPC上で行うため、PC上でものを書く習慣が付き、現代の情報社会に適した習慣を身に付けることができた。以上2点はCALL教室だからこそ得られた利点である。最後の点は個人的ではあるが私が最も感謝を表明したいものである。自由な学習。学生に与えられた作文テーマは比較的幅のあるものであった。しかし我らは決して放埒の安逸に陥ることはなかった。なぜならテーマの性質はそれでいて、熟慮された注意書きのためもあり極めて厳密であったからだ。我らは広大な創作の世界で数個の軛に煩悶しながらも奔放に駆け回った。矛盾した表現ではあるが、こうした学習が私の中にほんの小さな種としてでもいいから埋め込まれていて、将来、力強い創作的英作文につながればと願う。

（管藤　禎三）

＊＊

パソコンを使った授業。パソコンを使った宿題。テストさえもパソコンで。大学に入るまで、パソコンに触れることさえほとんどなかった私にとって、サイバーメディアセンターでのWebCTを通した授業形式は、容易には受け入れがたいものでした。語学という、人とのコミュニケーションを不可欠とする授業において、人でなく機械と向き合っている、という状況にも初めは抵抗がありました。

しかし、サイバーメディアセンターでの授業を重ねるうちに、キーボードの扱いにも慣れ、パソコンへの苦手意識も少しずつ薄れ、それにつれて、授業でパソコンを使用することのメリットが、次第に見えてくるようになりました。

そのうちの1つが「自分の苦手を見つけやすいこと」です。練習問題やテストにはパソコンから解答するため、自分の解答はいつでもWebCT上で確認することができ、そのため、自分の得意・不得意な範囲を、簡単に見つけ出すことができます。

WebCTをうまく活用することで、自分の苦手に自分で気づき、漏れのない学習を続けていくことができると思います。

（人間科学部・千草　彩）

＊＊

フランス語初級Ⅰを受講した関係でCALL第二教室を使うことになりました。自分はフランス語を習うのは全く初めてでしたが、フランス語について右も左も分からない中で、CALL教室での授業は非常に自分に

とって力になりました。特に発音の面では役に立ったと思います。言語を習得するにあたって、発音を覚えた方が暗記の効率も上がると思います。しかし、フランス語を聞くといってもそのような機会はほとんどないし、付属の CD もうまく活用できていないという現状で、毎週 1 回 CALL 教室を使って授業を受けられたことで、目と耳から未知の言語に対していけたように思います。

また、空き教室が開放されてあったことも良かったです。コピーがその場で出来るという利点もあったので、レポートの作成から提出前の段階に至るまでを CALL 教室に依存していました。空調もほどよく、静寂の保たれた環境でレポート作成もはかどりました。CALL 教室は、大学生の学びを大いに支援してくれる場だと思います。

（人間科学部・中谷 知樹）

＊＊＊